

LIBRARY NEWS

26

□ 新入生の皆さんへ

□ 私のお勧め本 第20回

結城准教授がこの季節にぴったりな
「北海道共和国のオキテ100カ条」を紹介します

□ 図書館からのお知らせ

4月から図書館の運用が変わります



新入生の皆さんへ

図書館長 藤尾 均

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。図書館長の藤尾です。皆さんの今後数年間の学生生活が実り豊かなものとなるよう心よりお祈りいたします。

現在、私は入学センター長も兼務しています。本学の入試はAO(医学科のみ)・推薦・一般前期・一般後期・2年次後期編入(医学科のみ)と、実に多様です。

しかし、どの入口から入った学生も、トータルして比較すると、例年、学力的な差はほとんど皆無です。ですから、決して卑屈になったり逆に慢心したりせず、互いに刺激しあいながら仲良く勉学に励んでいってください。

さて、入学センター長としての発言はこのくらいにして、以下、図書館長の立場から書きます。

本学は昭和48年(1973年)に開学し、昨年、40周年を迎えました。医学科の学生100名でスタートした40年前には、まだ図書館はなく、現在の一般教育教員室の一角に小さな図書室があっただけでした。

現在の図書館は、開学6年目の1978年(昭和53年)にようやく完成しました。しかし、その後1996(平成8年)に看護学科が誕生し、在学生数は一挙に増えましたが、図書館の面積は変わらず、反面、蔵書数は増える一方で、年ごとに手狭になってきました。学生の皆さんの学習スペースは決して十分ではなく、御不便をおかけしてきました。

しかし、昨年来、国家予算で新規増築工事(地下1階・地上2階)と既存部分の全面改修工事が認められ、現在、工事は着々と進行しています。来年3月までには現在の1.5倍以上のスペースの新図書館が出来上がり、机・椅子・書架・パソコンなども大きくリニューアルされたものに生まれ変わります。楽しみにお待ちください。

ところで、図書館長や図書館スタッフの役割は、決して図書資料の閲覧・貸出に便宜を図ることだけではありません。とくにここ数年は、学生の皆さんの知的好奇心がさらに刺激されるよう、様々なイベントを数多く企画してきました。

たとえば、

(1)本学の第一線で活躍していらっしゃる先生方をお招きしてロビーでコーヒーを飲みながら自由に語り合うサイエンス・カフェ。

(2)本学図書館所蔵の、1400冊にも及ぶ貴重な「お宝」医学書(寄贈して下さった方にちなんで「関場・鮫島文庫」と名付けました)の展示とその解説。

お宝本 山脇東洋著『蔵志』より→



(3)図書館に備えてほしい教養書を学生自身が大型書店(旭川駅前のジュンク堂)で自由に選んで購入するブック・ハンティング。

(4)小樽商大・帯広畜産大・北見工大など、他の道内国立大学との連携事業(蔵書の交換展示・貸出など)。

(5)旭川市中央図書館との相互交流事業(読書案内を内容とする講演会の開催など)

(6)本学医学生・看護学生の必読文献を集めた「闘病記コーナー」「地域医療書コーナー」の充実強化。

(7)イベントの予告や実施報告、本学教員による「私のお勧め本」などの情報を満載した「ライブラリー・ニュース」の定期的発行。

皆さんが目にしてこのビラこそ、最後に触れた「ライブラリー・ニュース」にはかなりません。A4サイズのささやかなビラですが、一昨年4月から1回のペースでコンスタントに発行してきました。教員による「お勧め本」は図書館に備えられていて、いつでも読むことができます。今回のこのコーナーには、薬理学講座の結城先生に御登場いただきました(裏面を御覧ください)。バックナンバーは図書館ウェブサイトを読むことができます。このニュースをぜひ、皆さんの知的好奇心の刺激の一助としてください。

最後に、皆さんの前途に幸多かれと念じつつ、この拙稿をとじることにします。



昨年行われたサイエンスカフェの様子←





北海道共和国のオキテ100カ条 佐藤のりゆき監修 北海道コーナー 361.4/Hok

皆さんこんにちは、そして新入生の皆さんはじめまして。私は、一年を通してほとんど雪の降らない、つまり雪かきをしない、茨城県つくば市から旭川に家族で引っ越してきました。最初は医大宿舍に入ったので、車に積もった雪はおろしていましたが、生活する上で毎日雪かきをしなければならぬ苦労はあまりありませんでした。また、北海道はほぼ標準語なので、会話していて困ることもなかったのですが、たまにわからない言葉や習慣が出てきました。今や子供も普通(?)に北海道弁(かな)を使って話していますが、引っ越してきた当時は、ちょっと戸惑っていました。今でも覚えているのは、幼稚園の先生に「そのゴミ投げて!」と言われた息子が、思いっきりゴミを投げずってたということです(先生は、ただゴミを捨ててという意味で言ったと思うのですが)。

北海道に限らず、各地の人たちが普段当たり前に使っている言葉が、実は他から来た人には理解できなかつたり、別の意味だったりすることはよくあります。今回紹介するのは、北海道外から来た人が、道内の人と話している言葉や習慣を理解するのにうってつけと思える本です。「いずい」、「押ささる」、「こわいから休みます」といった言葉をご存じでしょうか? また、北海道では、大晦日におせちを食べたり、赤飯に甘納豆が入っていたり、「ローソク出一せ、出一せよ」と言って子供たちが近所の家を回ってお菓子をもらっています。私は、この本を読むことにより言葉や習慣の意味、そして北海道の人たちの温かさを少しわかったような気がします。また、道内出身の当講座の人たちにも見てもらいましたが、興味深い内容となっているとのことです。「北海道人なら! 北海道に来たら! このオキテを知らなきゃソン!」と、表紙にも書いてありますので、道外からの新入生の方々だけでなく、道内出身の皆さんも是非一緒にご覧頂き、お互いの地域の言葉や習慣を語り合い、交流するきっかけになればと思います。

図書館からのお知らせ

4月から図書館の運用が変わります。
ご理解の上、ご協力をよろしくお願ひいたします。

平日は毎朝9時に全ての座席を 空き席に戻します

平成26年4月1日から、長時間座席占有に対する措置として、平日毎朝9時に全ての座席を空き席に戻して有人開館を開始(朝リセット)します。

平日毎朝8時45分~9時までを利用制限時間帯とします。利用中の学生は、放送に従い速やかに全ての荷物を持って退館してください。

座席に残された荷物は全て回収し、3度回収された学生に対しては無人開館の利用を一週間停止します。

なお、放置された荷物に関して、汚損等の事故または貴重品等の紛失が、回収中に発生しても、図書館では一切の責任を負いません。

館内でペットボトル等のふた付き 飲み物が飲めるようになりました

試行期間平成26年4月1日~平成27年3月31日

ペットボトル、水筒、蓋付きの缶など、倒れても中身がこぼれないふたが付いている飲み物に限り、館内への持ち込みと、館内での摂取を試行的に認めます。

※但し、パソコンコーナーと視聴覚室を除きます。



食べ物(飴・ガム・チョコレートを含む)は今まで通りダメです!

ようこそ! 医大図書館へ

図書館スタッフが館内を10分程度でご案内します。直接図書館前ホールにお越しください。数人ずつ集まり次第出発します。

新院生・新職員
向け図書館ツアー
4月3日(木)
17:00-18:00

新入生向け
図書館ツアー
4月7日(月)
16:30-17:30

工事関連のお知らせ

昨年度に引き続き、図書館では工事が続きます。

5月のゴールデンウィーク明けには、既存棟の南面サッシ工事・既存棟と新棟間の渡り廊下接続工事が始まります。

そのため、4月末頃に窓際の30席程の座席を移動します。

利用者の皆さまにはご迷惑をおかけしますが、どうぞご理解ください。

日程が決まり次第、ホームページや掲示などでお知らせします。

昨年11月よりご不便をおかけしていましたが、電動集密書架が新しくなりました。資料も戻りましたのでお知らせいたします。

